

各学部、各学科、課程の目的及びアドミッションポリシー

各学部、各学科及び課程においては、建学の理念に基づき、人材養成と教育研究の面からそれぞれの目的を以下のとおり定めている。

農学部

目的：

本学部は、植物・動物の生命に関する基礎から応用までを科学し、それらを農学の発展に資することを目的としている。同時に動植物の育種、生産、加工など生産領域ならびに人と動植物との共生や生物介在療法など学際的領域を教育研究し、豊かな心と実学的知力を養い国内外において地域リーダーとして活躍できる意欲と能力を持った人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学部では、動植物の生命現象の追求を基礎とし、国内外における農作物や畜産物の安全かつ安定した生産と供給、さらには動植物の活用による人の生活の質の向上など、広範な領域で活躍できる人材を求めています。

農学科

目的：

本学科は、安全で信頼性の高い、安心、安定した農業生産のため、農作物の特質、栽培技術等の学理を教育・研究し、実学的な教育と積極的な課外活動を通して、自己の適性を発見し、持続可能な次世代型農業を開拓、国内はもとより世界の農業を中心とした広範囲な分野で羽ばたくことのできる人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学科では、作物の特質、栽培技術等に興味を持ち、豊かな心と実学的知力を身につけて、国内外において農業を中心とした広範囲な分野で活躍できる意欲を持った人材を求めています。

畜産学科

目的：

本学科は、動物の生命現象の本質を追究する生命科学と生産物の生産から流通までの食料生産を追求する生産科学の2領域を包含している。課程を通じて生命の尊厳や倫理を学び、豊かな心を持ち、医・薬・理学領域まで広がりを見せる生命科学関連及び良質で安全な食料を生産する生産科学領域で貢献し得る人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学科では、家畜の育種、繁殖、生理、衛生、飼養、加工および流通などに興味を持ち、日本にとどまらず世界的な視点で畜産を考えられる意欲ある人材を求めています。

バイオセラピー学科

目的：

本学科は、人と動植物とのかかわり、すなわち動植物との共生、動植物の活用による生活の質の向上、動植物を介しての癒し、さらに動植物を介在させた療法にまで及ぶ学際的領域に関する教育と研究並びに実践を行い、国内外においてこれらの領域で活躍できる意欲と能力を持った人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学科では、動物と植物の双方に興味を持ち、生物を活用した人の生活の質の向上や癒し、健康増進、地球環境における人と生物との共生を学び、その成果を普及、実践する意欲を持った人材を求めています。

応用生物科学部

目的：

本学部は、動植物・微生物等が営む生命現象について理解と解析能力を高め、人と環境との共生の上に成り立つ生活を真に考究し、実践出来る人材育成を教育理念としている。本理念の達成に向け、生物と化学を基礎学問に据え、講義と実験・実習さらには卒業論文実験を通じて、学力の向上と国際的研究を目指す。

アドミッションポリシー：

本学部では化学と生物に興味を持ち、農学の知識と知恵を食料・環境・健康・バイオマスエネルギー分野で活用し、国際的な視野に立って実社会で活躍する意欲の高い人を求めています。

バイオサイエンス学科

目的：

本学科は、基礎から最先端の生命科学の知識と技術を習得し、生命現象を本質的に理解し、生命科学を利用して社会貢献できる人材及び研究や開発等生命科学領域で幅広く活躍するための礎となる深い洞察力と問題解決能力を身につけた個性豊かな人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学科では、まず生命科学に強い興味を持ち、さらに環境問題・健康などにも興味を持つことにより、グローバルな視点でこれらの問題解決にチャレンジする意欲的な人を求めています。

生物応用化学科

目的：

本学科は、化学と生物学の素養と知識を基礎に生命現象から環境問題までを多角的に理解・解析できる人材を養成する。その目的を達成するため、食料・健康・環境・資源エネルギーにかかわる諸問題を対象として、基礎から応用にわたる実学的教育・研究プログラムに基づいた教育をする。

アドミッションポリシー：

本学科では化学、生物の基礎力を持ち、大学で築き上げた知識、技術、発想力、指導力を十分に活かし、農業関連分野ならびに食品・化学産業の生産・開発・研究や技術系公務員、教員、研究者などを目指し、国際的な視野に立って実社会の諸問題を解決する意欲のある人を求めています。

醸造科学科

目的：

本学科は、わが国唯一の醸造・発酵技術関連の高等教育研究機関である。微生物利用産業における、伝統技術から最新のバイオテクノロジーに至る幅広い分野の教育研究を行なっている。当該分野の基礎知識及び総合的技能を有する、醸造・食品・微生物利用産業の発展に寄与する人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学科は、これら食や環境に関わる課題に微生物の力を利用し取り組むことに強い関心をもつ人を求め

ています。併せて、微生物学、有機化学、生化学などの生命現象の全体像を理解するための基礎的学問を学ぶ意欲をもち、これらを礎として生命現象の総体である醸造科学の理論と技術を修得し、将来、醸造・食品産業や微生物利用産業において研究開発、技術者として活躍することを目指す主体的・積極的な人を求めています。

食品安全健康学科（平成 26 年 4 月 開設）

目的：

本学科は、食の安全と健康機能を統合した学問領域を科学するため、幅広い基礎科目を基盤とし、多様な専門コア科目による教育を展開することにより、食の安全・健康上の問題解決力を備えた食品技術者・研究者・行政官となり得る人物を養成する。

アドミッションポリシー：

本学科は、生命に直結する「食の安全・安心」と「食の機能と健康」に興味を持ち、これを論理的に科学することで目の前のあらゆる困難な課題を解決する意欲を有し、将来、食品関連の技術者・研究者・教育者・行政官として指導的立場に立って活躍することを目指している人材を求めています。

栄養科学科

目的：

本学科は、食品に含有される栄養成分・非栄養成分が生体に与える影響を理解し、食品の調理、加工、食事の提供などに応用されるまでの理論と技術の習得や、人間を対象に、健康の保持・増進と生活習慣病の予防・改善の要となる栄養学を追究し、実践的な理論を科学し、技術を習得することを目的とする。これらの知識や技術にプラスして「高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持・増進のための栄養指導者」としての管理栄養士養成を行う。

アドミッションポリシー：

本学科は、食・栄養・健康に興味を持ち、管理栄養士の資格を活かして科学的根拠に基づいた食・栄養・健康の情報を活用し、様々なライフステージの人々に対し、健康の保持・増進、疾患の予防・改善、生活の質の向上に積極的に貢献したい人を求めています。

地域環境科学部

目的：

本学部は、生物に対する深い理解を基調とし、自然と人間の調和ある地域環境と生物資源の保全・利用・管理のための科学技術を確立することを目指すものである。さらに、ミクロな地域環境問題の解決はもとより、マクロな広域環境問題、さらにはグローバルな地球環境問題の解決に貢献する人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学部は、世界的な環境問題をはじめ地域環境問題やみどり豊かで、健康的な地域づくりなどに興味を持ち、循環型社会の実現に向けてチャレンジする意欲的な人を求めています。

森林総合科学科

目的：

本学科は、人間と森林の共生に貢献できる人材の育成が、教育・研究目標である。森林そのものと環境循環について科学的に理解することからはじまり、森林のもつ資源生産的機能と環境循環機能を総合的に考究するなかで、これからの循環型社会の創造に貢献できる専門知識を養う。

アドミッションポリシー：

本学科では、森林、環境、生物多様性、山村地域、木材利用などに興味を持ち、みどり豊かな国土・健全な地域社会を創造することや持続的な低炭素社会の実現に向けての問題発見能力や問題解決能力を身につけようとする意欲を持った人を求めています。

生産環境工学科

目的：

本学科は、農業生産の場における土・水・施設・機械に関する技術を応用し、地域から地球規模まで考慮した環境保全に資する新たな農業生産技術とエコ・テクノロジーの開発を行うとともに、生産性向上のみでなく、環境・資源・エネルギーに配慮した計画・設計・施工・管理を行える倫理観を持った技術者を養成する。

アドミッションポリシー：

自然と人間との調和、生産環境や生物資源の保全・利用・管理などに興味を持ち、広域的あるいは地域的な視点で環境問題の解決にチャレンジする意欲のある人を求めます。

造園科学科

目的：

本学科は、庭園文化を踏まえ、人間と自然の調和共生社会の実現をめざし、都市から田園、自然地域にわたる国土の環境と景観を保全・活用し創造するための、調査・計画・設計・施工・管理・運営及び材料に関する理論と応用を教授し、豊かな感性とデザイン力、確かな倫理観を持つ造園家、造園技術者を養成する。

アドミッションポリシー：

地域、環境、緑、生活、文化、歴史、自然、景観などに興味をもち、人間と自然との共生実現に積極的にチャレンジする意欲的な人を求めます。

国際食料情報学部

目的：

本学部は「日本と世界の食料・農業・農村問題の解決に向けて、国際的情報網の活用のもと総合的・実践的に挑戦する」をモットーに、農業・農村開発と国際協力の推進、持続可能な食料・農業システムと循環型社会の構築および資源・環境保全と産業発展の共生を図る新しいバイオビジネスの展開等の分野で活躍できる人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学部では人類共通の課題として提起された食料・環境・エネルギー・経済成長・人口・情報などの諸問題を地球規模的視野で捉え、これらの問題解決のために取り組む人材を求めています。

国際農業開発学科

目的：

本学科は、自然科学と社会科学の両領域からなる科目を配し、さらに、国内外の農業実習・研修を積極的に取り入れ、「専門性を活かした総合的アプローチ」をモットーに、農業・農村開発協力を通じて国際貢献のできる人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学科では、環境保全に配慮した農業開発を推進するために必要な教育・研究を行うとともに、国際的な視野で農業開発を実践する人材を求めています。

食料環境経済学科

目的：

本学科は、社会科学、とりわけ経済学的手法を用いて、「農業」「食料」及び「環境」を取り巻く課題を地域的・国民的視点、さらには国際的視点から究明し、もって「新たなフードシステムの構築」及び自然と人間の共生を軸とした「持続的な循環型社会の構築」に資する人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学科では、食べ物の生産・販売・消費をめぐる広範な食料経済の領域において活躍する意欲や食料経済に関する環境問題の解決に関心を持ち、学んだ成果を普及・実践する人材を求めています。

国際バイオビジネス学科

目的：

本学科は、人類の生存に最も重要な食料・環境にかかわるビジネスの教育・研究をおこなう。食料の生産、加工、流通、支援サービス、さらには生態系を踏まえた地域環境・資源の分野において持続的な経営発展を推進するバイオビジネスの専門的知識と技術を身につけた国際的人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学科では、食料の生産・加工・流通等にかかわる企業の経営やマーケティング、情報処理技術、自然環境の評価や保全、地域資源の持続的活用などの知識を身に付けた食料・環境ビジネスの専門家をめざし、国内外で広く活躍できる人材を求めています。

生物産業学部

目的：

本学部は、人類生存の基である生物産業にかかわる生産、加工、流通、経営を取り巻く自然科学的・社会経済的現象を教育研究の対象とした生物産業学を基盤として、文理融合の教育体系のもとで、生命・食料・資源・環境問題に関する深い知識を持ち、その解決方向を示すことの出来る地域社会・国際社会に貢献しうる人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学部は食料自給や環境保全など人類共通の課題に興味を持ち、問題解決に向けて意欲的にチャレンジし、生物産業の発展に寄与すると共に、広く社会に貢献できる人を求めています。

生物生産学科

目的：

本学科は、多様な陸圏領域の教育・研究が実践できるように配置した植物系、動物系、資源・環境系の分野において、新しい生物資源の開発や多様な環境に配慮した生物生産力の拡大、生物資源機能の新しい応用等にかかわる理論と技術を教育研究し、国際的な視点で地域産業の発展に貢献できる人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学科は食料資源や自然資源の宝庫であるオホーツク圏において、食料資源の生産、管理、生態系の保全、生物資源の機能などに興味を持ち、21世紀人類の課題である人と自然との調和に基づく食料自給率

の向上や自然資源の保全に貢献できる意欲的な人を求めます。

アクアバイオ学科

目的：

本学科は、豊かな生態系と高い生産性に恵まれたオホーツク海を主たる場として、資源の生物学的知見と、それを育む水圏の環境及び生態系にかかわる知見とを統合的に理解させることを教育研究の目標とし、水圏環境の保全、水産資源の増養殖、解析、管理、未利用資源の開発、漁獲物の利用加工や流通等に資する人材を養成する。

アドミッションポリシー：

水圏の生物や生態系そして環境はもちろん、これらの保全などにも興味を持ち、オホーツク海から地球全体の生物、生態系や環境に関する問題の解決に積極的にチャレンジする意欲のある人を求めます。

食品香粧学科

目的：

本学科は、フードサイエンスコースとコスメティックサイエンスコースからなる。前者ではオホーツク地域の農水畜産資源を活用した食品の製造・加工法、食の安全・安心や微生物に関して、後者では機能性食品や香粧品の資源、機能および生物化学的研究に関して、基礎から応用まで総合的な教育・研究を行い、産業界で即戦力として対応できる人材を養成する。

アドミッションポリシー：

本学科は、自然や食、香り、健康などに興味を持ち、様々な観点から、食や香粧を通じた体の内外からの健康のサポートや、物心両面における生活の豊かさ向上に向けてチャレンジする、意欲的な人を求めます。

地域産業経営学科

目的：

本学科は、農林水産業、食品加工業、自然を活かした観光業、環境ビジネスなど、地域産業を支える経営を実践するための経営学理念を修得するとともに、そうした生物産業を中心とした経営体の持続的発展、産業間連携の支援を通じて地域産業の再生・活性化・創造に貢献し、地域産業の担い手たる人材をオホーツクの地・産業をフィールドとして養成する。

アドミッションポリシー：

豊かな生物資源と自然資源を有するオホーツク地域をフィールドとして、生物産業を中心とした経営体の持続的発展と産業連携の支援手法、さらに地域産業の再生・活性化・創造に貢献できる問題解決型の地域産業経営学を修得し、世界に通用する実践力と社会的使命を果たす主体的な意欲に溢れた人を求めます。

教職・学術情報課程

目的：

本課程は、知識・品位・技能を兼ね備えた熱意あふれる教員並びに博物館・図書館等における各種情報の調査・収集・整理・保管・検索・提供等の実務に取り組む実践的かつ専門的知識を身につけた学芸員及び司書を養成する。